
陽だまりに猫

鳩夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陽だまりに猫

【コード】

N0612I

【作者名】

鳩夜

【あらすじ】

ある日の、どこかの、寿命を迎えた猫の話。

刻が静かに、はらはらと流れている。

微かに蘇ってくる樹の香り、蒼い草の匂い。蝶が音もなく、不規則に飛んでいる。

はたはたとそよぐ風が心地よい。静かに目を閉じて、伸びをする。

背中に、とく、とく、と刈り込まれた芝の鼓動が伝わってくる。虫はカサカサと這っている。

気持ちの良い午後だ。

陽だまりが、まるで何かを招くかのようにひらひらと全てに降り注ぐ。

なんて穏やかな日なんだろう、今日は。

ごろん、と寝返りを打ってみる、そのまま、ごろんごろん、と庭を転がってみる。

目は閉じているのだけれど、周りの景色がきゅるきゅると回る様子が手に取るようにわかって、

ほんの少しだけ滑稽でもあり、ずっと回っていたくもあつた。

けれど、へばっちゃうからすぐに目を回す……うん、目を回したんだ、と自分に言い聞かせ、

そのままぺたん、と最初のように横たわる。

なんだかとてものんびりしていて、今までのことが嘘みたいに見える。
てきた。

ふぁーあ、こういう日はゆっくり寝るのが一番だよな。

もう一度、思いっきり伸びをして、仰向けになる。そして、まぶた
越しの光を、

改めて直に見渡した。

清々しいほどの青空だ。淡い、淡い蒼い色に、ほんのりと千切った
雲がゆったりと覗いている。

その中を、鳥がたった一羽で、雲よりもゆったりと飛んでいる。と
ても自由な感じがする。

もちろん僕も自由な生き物だけれど、こうやって空を見ていると、
鳥も大変すばらしく感じる。

大きく翼を広げ、遙か下を見渡す景色はどんなものだろう。

今の僕はまだ高い所は苦手だから身震いしてしまうけれど　とい
つても実際はまばたきを

しただけだけれど　鳥はどう思っているんだろうか。

ああ、こうやって見ると、鳥もなかなかいいものだなあ、とぼんや

り考える。

次に生まれ変われるなら、僕は鳥にでもなりたいな……。

僕はそうやって呑気にあくびをすると、もう一度目を閉じた。

その日、どこかの猫が陽だまりの中で、穏やかに死んだ。

(後書き)

穏やかに、のんびりと。

猫はきつと悔いがなかったから、ゆったり死ねたんだ、うん……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0612i/>

陽だまりに猫

2010年11月5日01時29分発行